

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 021	提案機関名 一般社団法人神奈川県畜産会
要望問題名 新たな暑熱対策の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 昨今の異常気象による影響は特に、夏場の気温上昇による生産性の低下だけでなく時には、家畜の生存を脅かすまでとなっており、これまでの既知の暑熱対策では克服できない状況にある。現状の畜舎において可能な新たな有効な対策の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 国産エンリッチドケージによる暑熱対策技術の検討（令和2～4年度） 環境制御型養豚施設の実証試験（令和元～3年度）		
対応の内容等	豚では、環境制御型豚舎の暑熱対策の検討として、日中入気口でドライミストを噴霧したところ、日中の豚舎内の平均気温が外気と比べて1℃程度低くなり、夏季に飼育した肥育豚のDGが改善されました。環境制御型豚舎については、今後換気量の設定の見直しなど、引き続き検討します。 採卵鶏では、令和2年度からバタリーケージとエンリッチドケージでの飼育密度とケージ構造の違いによる暑熱時の影響について検討しており、また鶏種銘柄間の暑熱耐性についても併せて検討しています。 今後、豚では、県内で普及している開放型豚舎で導入可能な暑熱対策として、簡易な改造や処置の組み合わせによる授乳期母豚の生産性の向上について、令和4年度から試験を開始する予定です。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			